

チューリッヒ美術館展に行ってきました



ピカソ セザンヌ シャガール モネ ゴッホ
ドガ ゴッディン タリ カンディンスキー
ルソー マグリット マティス クレー ミロ



1年生2名、2年生2名が企画に参加してくれ、神戸市立博物館で開催のチューリッヒ美術館展をじっくりと鑑賞することができました。

モネやセザンヌ、ピカソ、ダリの平面作品はもちろん、ジャコメッティの立体作品など名作ばかり、74点が展示されていました。ゆっくり鑑賞できるボリュームでした。

最大の注目作品は、縦2m、幅6mのモネの「睡蓮の池 夕暮れ」。

この作品を見たくて参加してくれた生徒もいて、その大きさと、夕暮れを表現する独特の色遣いやタッチに思わず足を止めていました。

画集の写真やインターネットなどの画面からは、なかなか伝わってこないその迫力や筆のタッチ、色の重なりを実際に目の当たりにし、その大きさと共に、モネが描こうとした世界感を感じるようになりました。また、様々な作家の作品を通して、コンテで描かれた作品に興味を持ったり、油彩の作品が多い中、ガッシュで描かれた作品をみて、「なぜかこれだけ発色が違う」とその画材の違いに気づいたりするなど、その鋭い観察力に驚かされました。

様々な作家の作品に触れることは、その表現方法やテーマ性の違い、また同じ画材でも作家や時代により、その作風が違ってくることなど、様々な気づきを得ることができます。そして、何より、日本に居ながらにして、時代や国を超え自分の目でホンモノの作品を鑑賞できる喜びを感じ、観る者をその世界に引き込む力があります。

作家の想いや感性に触れ、それぞれが「感じる心」を大切に、これからも美術館に行ったり、作品を鑑賞したりすることを「楽しむ」きっかけにしてくれることを願います。

美術室には、展覧会画集を置いていますので、興味のある人はぜひ開いてみてくださいね！

チューリッヒ美術館展 鑑賞